

競技規則の改正

ゴールエリア内のFK要注意!!

通達

1984年度競技規則の改正について
財団法人 日本サッカー協会

1984年6月2日、スコットランド・ターンベリーで開催された国際評議会において以下の決定がなされた。

この改正は国際試合においては1984年7月25日より発効するが、日本国内においては日本サッカー協会主催の競技会は1984年9月1日より、その他の競技会においては主催する協会の定める日より実施する。

A. 競技規則の改正

1. 第8条 競技開始
-
- (サッカー競技規則 18ページ)

現行

(d) その他の事由による一時的中断の後: ボールがタッチラインまたはゴールラインを越えなかった場合で、競技規則に規定されていない事由によって競技が一時に中断されたときには、競技が中断されたときにボールのあった地点において、主審がボールをドロップすることによって競技は再開される。ただしその地点がゴールエリア内の場合には、競技が停止されたときにボールのあった地点にもっとも近いゴールラインに平行なゴールエリアのライン上でボールをドロップする。

主審のドロップしたボールが、競技者に触れる前に、タッチラインまたはゴールラインを越えたときは、主審はふたたびボールをドロップする。競技者はボールが地面に触れるまでは、インプレーとはみなされない。主審のドロップしたボールが、競技者に触れる前に、タッチラインまたはゴールラインを越えたときには、主審はふたたびボールをドロップする。競技者はボールが地面に触れるまでは、ボールをプレーしてはならない。ドロップボールが本項の通りに行われなかった場合には、主審はふたたびボールをドロップする。

(d) その他の事由による一時的中断の後: ボールがタッチラインまたはゴールラインを越えなかった場合で、競技規則に規定されていない事由によって競技が一時に中断されたときには、競技が中断されたときにボールのあった地点において、主審がボールをドロップすることによって競技は再開される。ただしその地点がゴールエリア内の場合には、競技が停止されたときにボールのあった地点にもっとも近いゴールラインに平行なゴールエリアのライン上でボールをドロップする。

(理由)
ゴールエリア内でボールをドロップする場合、競技者が群がって押し合いになるのを避けるためである。

この改正によってボールはゴールラインから5.5メートル離れて平行に引かれているゴールエリアの線上でドロップされる。

2. 第13条 フリーキック
(サッカー競技規則 25ページ)

現行

昭和59年度関西社会人リーグ戦結果

京都府警	大阪ガス	大日	日	兵庫教員	田辺FBC	紫光ク	電々近畿	大阪教員	三菱京都	勝点	得点(1)	失点(2)	G.D.	順位
2-0	0-1	0-2	1-2	0-0	2-2	1-0	2-1	3-1	10	11	9	2	4	1
2-3	0-0	2-2	3-1	4-1	0-0	2-0	4-3	11	21	17	28	10	19	7
1-2	0-2	1-2	2-1	2-1	3-1	2-0	4-1	10	15	10	5	3	2	2
3-2	3-5	3-2	1-1	2-1	2-0	1-1	2-2	11	21	17	32	14	24	3
2-0	2-0	1-0	0-1	0-0	2-2	2-2	1-0	11	10	5	5	2	2	3
0-0	5-3	2-2	1-1	1-2	0-1	3-2	1-0	9	20	13	23	11	16	2
2-1	2-1	0-1	0-0	0-0	3-0	2-1	3-2	12	12	6	6	1	4	4
2-2	2-3	2-2	0-0	2-1	1-2	1-3	2-1	7	19	12	24	14	20	-2
0-0	1-2	1-0	0-0	1-1	0-0	1-0	0-0	9	4	3	1	5	5	5
1-3	1-1	1-1	0-0	1-1	0-0	1-2	2-1	7	16	7	11	9	12	-2
2-2	1-2	0-0	0-0	1-1	1-3	2-0	3-0	8	10	8	2	6	6	6
1-4	1-2	2-1	1-2	1-1	2-1	0-1	2-0	7	15	10	20	12	20	0
0-1	1-3	2-2	0-3	0-0	3-1	2-1	0-2	6	8	13	5	7	7	7
0-0	0-2	1-0	2-1	0-0	1-2	1-1	5-2	9	15	10	18	8	21	-2
1-2	0-2	2-2	1-2	0-1	0-2	1-2	0-1	1	5	15	-10	9	8	8
0-2	1-2	2-3	3-1	2-1	1-0	1-1	3-0	10	11	13	18	9	24	4
1-3	1-4	0-1	2-3	0-0	0-3	2-0	1-0	5	7	13	-6	8	9	9
3-4	2-2	0-1	1-2	1-2	0-2	2-5	0-3	1	6	9	16	21	34	-12

有宏スポーツ

東灘区御影本町4丁目11-9
阪神御影駅南側西へ30m

スメラ

済川店 済川プラザ2階
鈴蘭台店 ダイエー西側
☎078(511)2234
☎078(592)0470

塩谷スポーツ

兵庫区大開通7丁目5
バンドウ化學南

加茂トアロード店

中央区三宮町3-8-8
国鉄元町駅南側東へ100m
☎078(392)0234

MEN'S SHOP MAC

三宮センター街店
プレザーショップトアロード店
ドルチェ・マック、センター街店
☎078(391)0895
☎078(391)0896
☎078(332)0141

ヤノ運動用品

本店 中央区三宮町3-8-1 ☎078(391)1121
ファイブ店 中央区三宮町2-7-8 ☎078(331)4578
六甲、長田、白川台、名谷、西明石、高砂、姫路、岡山

マヤスポーツハウス

灘区赤坂通7丁目5-14
☎078(861)8143
(861)4146

ワールドスポーツ

東灘区深江北町4丁目7-3
阪神深江北駅北側信号西
☎078(453)2186

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として70円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒650 神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
神戸市サッカー協会 ☎078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



1984 9月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市中央区八幡通2-1-10
三木記念神戸市立スポーツ会館内
〒651 ☎ (078) 232-0753
発行人および編集人 一北 四郎
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎ (078) 861-3100
毎月1回10日発行 購読料1部50円XEROX
SUPER
SOCCER

ボルドーFCが来神



昨シーズン、フランス代表に5人を派遣する。日本人、さらにボルトガル、今季も好調

60年1月15日(火) キックオフ 12:00

神戸総合運動公園メイン
—全日本代表対ボルドーFC—

フランスのサッカーは現在、世界のサッカーリーグの注目を最も集めています。これは82年スペイン・ワールドカップ準決勝で西ドイツとすばらしいゲームを開催し、延長、PK戦で惜しくも敗退したものの、そのスピ

ボルドーのジレスと(フランス代表)
アラン・ジレスといわれる

ディーでファンタスティックなプレーが決勝に進出したイタリアや西ドイツよりも高い評価を受けたからです。その後もフランスは、今年のヨーロッパカップで優勝し、ロス五輪でもブラジルを破って優勝と今、最も輝かしい栄光を勝ち取っています。

今回は舞台を神戸中央球技場から新設の神戸総合運動公園陸上競技場に移し、12時にキックオフされます。ワールドカップ・アジア地区予選を前に全日本がどこまで頑張れるかが見どころです。スタジアムは、6万人の観客収容能力を誇り、ユニバーシアード神戸大会の開・閉会式と陸上競技の会場となる神戸自

慢の競技場であり、今回兵庫県内はもちろん近畿、西日本のファンをも動員し、国立競技場に対抗する西日本のサッカーのメッカにするためにもメインスタンドを超満員にしたいと願っております。

入場料は次の通り。
<S席券(指定席)> 前売・当日とも 3,000円
<A席券(自由席)> (前売) (当日)
一般 1,500円 2,000円
中高生 800円 1,000円
小学生 300円 500円

なお、内定しているサッカー競技の日程と発表された入場券発売要領は別表の通りです。

<入場料>

【決勝トーナメント】
大人 当日 2,000円 前売 1,600円
高校生 ✕ 1,400円 ✕ 1,100円
小・中生 ✕ 1,000円 ✕ 800円
团体 1,700円【次リーグ】
大人 当日 1,500円 前売 1,200円
高校生 ✕ 1,000円 ✕ 800円
中・小生 ✕ 700円 ✕ 500円
团体 1,300円

【記念入場券】開・閉会式、全競技、全会場に入場できる。(発行枚数 500券) 50,000円

【特別割引制度】
(1) 小・中学生、高校生が学校行事として団体入場(25人以上)する場合。<料金>小・中学生 300円
高校生 500円
(ただし、開閉会式、バレーボール、バスケットボール、テニスの決勝戦は除く)
(2) 身体障害者、精神薄弱者及び70歳以上の者、身体障害者手帳など障害または年齢を証する書類等を所持している者。
<料金>各券種別料金の半額(ただし、開・閉会式は除く)入場券発売を開始
ユニバ'85 サッカー 日程も決まる

ユニバーシアード神戸大会のサッカー競技の入場券(準々決勝以降)が12月8日より発売されました。

ロス五輪での観客動員数が陸上競技を大幅に上回ったことが報道され、ユニバーシアード神戸大会組織委員会でも、サッカーの観客動員力に大きな期待が寄せられているだけにサッカー関係者としても大いに頑張って、サッカー場へ多数のファンを集める努力をしなければなりません。

サッカーの決勝は、当初9月4日の閉会式の前に開催していましたが、9月に神戸で開催されたFISU(国際大学スポーツ連盟)実行委員会で突然変更となり、決勝戦は、9月3日に神戸中央球技場で、3位決定戦とともに行われることになりました。

サッカーファンのみならず、この機会にサッカーを知らない人々にもサッカーを知つてもらうために積極的に努力したいと考えています。

ユニバーシアード'85神戸大会サッカー競技日程

会場	試合開始	22(土)	23(日)	24(月)	25(火)	26(水)	27(木)	28(金)	29(土)	30(日)	31(月)	1(火)	2(水)	3(木)	4(金)

<tbl_r cells="16" ix="4" maxcspan="1" maxrspan="1

全日本少年大会

千歳 県勢初のベスト16入り果す

千歳SC監督 永浜 和紀
全国各地大会を勝ち抜いてきた48チームが、6チームずつ8グループに分かれて1次リーグを行い、上位16チームでの決勝トーナメントで優勝を争うこの大会は、運、不運などは全く無関係で、すべてのチーム力がないと勝てない。

真夏の炎天下で行われる試合は、子ども達にとってかなりきつい。まず、体力のないチームは勝てない。その体力を維持するための宿泊生活でのしつけ、むし暑いよみうりランド会館での生活も勝つためにはクリアしなければならない大きな要素である。さらに、ロングシュートが5割をしめる小さなコートでの、大人用ゴールでの試合、人工芝、天然芝、土のグラウンドとコンディションのちがうコートでの試合も指導者を苦しめる。

初めての経験のなか、千歳も「神戸でやっていることをそのままやろう」それだけを考え試合にのぞんだ。兵庫県勢としては、初の

決勝トーナメント出場を果たしたが、第1回戦清水FCに完敗。勝つ要素は何もなかった。全国の素晴らしいチームを見ることができ、これからの神戸、兵庫のサッカー指導者の一人として我々が考えなければならない大きな課題をここに提案し、ともに克服していくと考えている。

それは、一つのプレーで終わることなく、連続したプレーをさせることだ。

例え、MFの選手が、右ウイングにパス、左のウイングにパス、そしてセンターリング、それをMFがシュートなど連続したプレーを要求するなかで、とりわけ重要なことは、2つ3つ先のパス、あるいは状況を選手がイメージ化しているかどうかということだ。(戦術眼)これができるないために連続したプレーができるないのではないかと思う。

また、走力、筋力の持続性とともに、集中力などの心のスタミナも同時に養うことが大切である。しかし、考えてみればこれも戦術



▲千歳堀江が桃山バックスを突破する

眼がないためだろう。やはり、全国でトップクラスに行くためには、個人技はもちろん、戦術眼の養成という結論になるのだが。

〈1次リーグ結果〉
千歳SC 2-2 桃山SC
9-0 喜屋武SC
3-1 蛇田SC
1-2 市川FC(千葉)
3-2 山口FC
(決勝トーナメント1回戦)
千歳SC 0-4 清水FC

神戸市中3選抜

広島トレセンに惜敗

神戸FCと広島TCの定期戦が9月15、16日ポートアイランド球技場で行われ、神戸市中3選抜チームも、それに参加することができた。選抜チームとしては、サマー・フェスティバル以来の試合で、練習を中止した3年生としては練習不足が心配される試合であった。

強豪広島TCが相手ではあるが、次のことを目標にゲームに臨んだ。攻撃面では、フォローに速めに入って簡単なパス回しと、両ウイングを走らせるオープン攻撃。守備面では、つるべの原則を徹底してカバーリングを意識

させた上で、スイーパーをボールサイド中心に仕事をさせて、ボールのある局面でのつぶしをはやくする守備。

始めのうちは、ややしりごみ気味でなかなか思いどおりのゲーム展開にはならなかった。

そんな中でも、何回かは選抜チームらしい両ウイングを生かしたボール回しが見られ、守備でも、相手の攻撃に守備陣がくずされたという場面もほとんどなかった。

試合の結果は0-1で惜敗してしまったが、サッカー王國の広島TCと試合ができ、自分達のサッカーがかなり高いレベルで通用するということがわかっただけでも価値があったように思われる。

正月に行われる関西選抜中学生大会の出場権獲得に向けて、今後とも一層頑張って行きたい。
村松 明雄

59年度神戸市高校秋季リーグ戦結果

1部A組①赤塚山(2勝1分)②甲北(2勝1敗)③長田(1勝2敗)④神戸(1分2敗)
1部B組①御影工(2勝1分)②北須磨(1勝2分)③六甲(1勝2敗)④星陵(1分2敗)
2部A組①神戸FC(3勝)②御影(2勝1敗)③須磨東(1分2敗)④東灘(1分2敗)
2部B組①育英(2勝1分)②須磨(2勝1敗)③八代(1勝1敗1分)④兵庫(3敗)
3部A組①弘陵(4勝)②夢野台(3勝1敗)③兵庫工(2勝2敗)④神戸西(1分3敗)⑤兵庫商(1分3敗)
3部B組①灘(4勝)②鈴蘭台(3勝1敗)③鈴西(1勝2敗1分)④市神港(2敗2分)⑤舞子(3敗)
3部C組①市神工(3勝1分)②伊川谷(3勝1敗)③私神港(1勝2敗1分)④神戸北(1勝2敗1分)⑤灘(2部)

1分3敗)
3部D組①灘川二(5勝)②葺合(4勝1敗)③友が丘(3勝2敗)④村野工(2勝3敗)⑤高専(1勝4敗)⑥高塚(5敗)

〈2・3部入替戦チャレンジ戦〉
灘川第2高 0-0(PK3-2) 灘高
弘陵高 2-0 市神戸工高
〈1・2部入替戦〉
神戸FC 7-0 神戸高
御影高 5-0 長田高
星陵高 2-1 育英高
六甲高 2-2 須磨高
この結果、六甲、星陵は1部残留、神戸FC、御影が1部昇格を決めた。

〈2・3部入替戦〉
須磨東高 5-1 市神戸工高
弘陵高 2-1 東灘高
八代高 5-2 灘高
灘川第2高 5-0 兵庫高
この結果、須磨東、八代は2部残留、八代、灘川第2は2部昇格を決めた。

この結果、御影工、須磨東、神戸、御影と県総体ベスト4に入った赤塚山が県中央大会に出場した。

神戸ミニ・サッカー大会から

「サッカーと親しむ」

あけぼの学園

あけぼの学園は、15才から18才までのちえ遅れの児童が作業を通じ、社会性、協調性等を身につけ社会参加していくための施設です。

園生たちは、スポーツと親しむことは多くの週一回のクラブ活動や休憩時間など寸暇を楽しんでボールを追いかけています。サッカーだけでなくバレーボール、ソフトと園生たちの好きなスポーツは幅広く、自由な時間が5分あれば運動場でもうスポーツがはじまっている園生たちのエネルギーに感謝してしまいます。

しかし、障害者の人達にはなかなか公式の試合というものがなく、日頃の練習の成果を試すことができませんので、今回のミニサッ

カ大会のような機会には、できるだけ参加していきたいと考えています。

今回の大会では障害者の部で優勝させて頂きありがとうございました。この大会前、一部の園生たちが2グループに分かれ、にらみあいの冷たい戦争をしていたのですが、試合中は学園の園生としての仲間意識の方が強くなっていますか、口をきくのもいやだと思っていたことを忘れていたようです。

株式会社モルテン
広島・東京・大阪・名古屋・福岡・札幌日本サッカーに
ルネサンスは起こるか?(15)

枚方FC 近江達

格闘技サッカーの好きな日本人。それはひょっとしたら、白兵戦を好み、特攻隊を生んだ日本軍の狂気とも通じるのではないか。欧米の軍隊は、もっと合理的に戦った。

そして、サッカーも

意志決定は智によって行わねばならぬ。馬鹿が勝つ世界は、この地上にはあり得ない。あつたら、それは地獄だ。——会田雄次

サッカーを語るのに何故、戦争のことなど書くのか。「そんなもの、サッカーとは関係ない」と立腹される方々もおられるにちがいない。

だが、サッカーには選手の、また民族の持つすべてが発現し活躍する。少し掘れば、スポーツ観から背景の社会環境、教育などが立ちどころに関連して出てくる。だから広い視野でサッカーを考察する場合、必然的にそれと取り組まざるを得なくなり、資料として戦争を取りあげるケースが起ころう。

戦争では、考え方、対処の仕方などに民族が持っている最も本質的な部分が露呈し、虚飾のない姿がよく見えるので、多数の貴重な教訓が得られ、今後に役立てることができる。戦争反対とか、旧日本軍駆倒を口にすることは易しい。しかし、私の言いたいことはそれではない。非合理的の世界を好み、科学を無視して、気迫を過大評価し、力で力を従え、動かそうとする悪癖は、日本人である以上、間違いなくわれわれの中に潜在している。当時と大して変わらぬ姿でサッカー界に出現横行しているものさえある。そのことに気付いて欲しいと思うのである。

それをどうするかは、諸氏次第である。
エンジン点火

では、戦場で臆病な欧米人が、何故、スポーツだと勇敢で闘争的になれるのだろう?

おそらく、合理主義の彼らとしては、スポーツでは、戦場と違って、生命の危険など全くないようルールで保護されているし、負けたって、何ということもない。いくら相手を打ちのめしても、報復されることもない。だから、思う存分、やりたいことをやろうじゃないか、という気持で暴れまくるのではないかと思う。

安全を保証された場所で、闘争欲をみたし、知恵をふり絞って駆け引きし、彼らの脂肪食から生ずる大エネルギーを爆発させ、力いっぱい発散することができるのだ。体格、体力に恵まれ、動物的で自己主張の強い彼らにとつて、これくらい楽しいことはほかにないのではないかろうか。

でも、ルールの保護とか言うことなら、何も外国人に限ったことではない。こちらも同

じなのだから、日本人も彼らのように力いっぱいやればいいと、誰でも思うに違いない。ところが、実際そう言ってやられてみると、結果はバッとなりしない。自由だと、どうしていいのか分らなくなったり、かえってしまがくなってしまう選手が多い。

そのために、日本人には歐米的な自発的サッカーなど無理で、やはり管理サッカー、命令サッカーでないとダメだと、断言する人もいる。

結局、選手一人ひとりの自我、自立度とか自己表現など、国民性や習慣の問題である。それに、スポーツ観も異なり、サッカーだけでなく、幼い頃からの教育が違う。思う存分、自分を出しつくせ、なんて教育は受けたことがないから、ときたまそう言われたって、選手の方も困るだろう。巧くいかなくて当然である。

もうひとつ、欧米サッカーで最も大切なボイントが見落とされている。

彼らは、サッカーがおもしろいから、樂しいから、やる気を出す。自由な創意工夫や自己表現のおもしろさ、樂しさが、彼らのエンジンに点火するのである。日本選手にはそれが欠けているか、不足しているために、十分点火しない。燃え上り方も悪いわけである。

管理サッカーからの解放

練習はつらいものだ。しかし本質的なよろこびだけは、子供なりに味わえなければならない。

——ロマン・ローラン

サッカー界というピラミッドは、学校教育民間による普及活動によって底辺が作られ、優れた選手が上にあがってゆき、上層は企業に所属して、そこから代表選手が選ばれる仕組みになっている。

構造上、底辺の拡大とレベルアップは自然に頂点を押しあげる所以、普及にたずさわるもののは、いずれはトップの代表チームの勝利となって実を結ぶであろうし、強い代表チームの出現は必ずブームを呼び、底辺の拡大やレベルアップをもたらして、いっそトップを向上させることになると考えられる。

したがって、関係者としては、そうした良い循環をなんとかして作り出し、サッカー界を永続的興隆への軌道にのせたいところである。私が言う面白いサッカーとは、巧さだけの問題ではない。ドリブル多用でもない。もちろん、何をしても勝ちさえすればよいというものでもなければ、勝利と関係なくプレーを楽しめばいいのだ、と言っているのでもない。

選手が、それぞれ各自の才能やアイディアを自由にのびのびと發揮し実現できる喜びを、心から感じることができるようなサッカー、いわば自立創造と自己表現のサッカー、これが私の言う楽しいサッカーである。

そして、私はそれができる選手を育成するように努力してきたつもりである。

この連載は、雑誌サッカー・ジャーナルに連載されている枚方FCの指導者、近江達氏の随想をサッカー・ジャーナルのご好意で転載しております。

「日本サッカーの発展のためにはルネサンスにも匹敵する人間性の解放が必要である」と、近江氏はいうが……。



写真提供 富士 信男

▲日本サッカーには果たして自立創造と自己表現はあるだろうか?

底辺の方は、代表チームが振るわなくとも、サッカー人口がふえ続けている。これはサッカーというスポーツがもっている魅力のおかげといふほかない。この分だと、次代の指導者がよほどヘマをしない限り、心配はなさそうである。

◆国家百年の大計

もうこれからは、普及よりもレベルアップ、とくに質の改良、教育についての反省、制度改革、グラウンド建設などに主力を注ぐべきであろう。

そこで、この際もし関係者に国家百年の大計を立てる気持がおありなら既成のサッカー教育についてぜひ一考をお願いしたい。

從来の日本式教育思想から離れ、根本的発想転換によって、選手、とくに年少者たちに樂しさ、面白さを満喫させるようなコースを進ませて頂けないものであろうか。

私が言う面白いサッカーとは、巧さだけの問題ではない。ドリブル多用でもない。もちろん、何をしても勝ちさえすればよいというものでもなければ、勝利と関係なくプレーを楽しめばいいのだ、と言っているのでもない。

選手が、それぞれ各自の才能やアイディアを自由にのびのびと発揮し実現できる喜びを、心から感じることができるようなサッカー、いわば自立創造と自己表現のサッカー、これが私の言う楽しいサッカーである。

そして、私はそれができる選手を育成するように努力してきたつもりである。

明日の栄光を勝ちとれ!

markam®

80年代をリードする
サッカーウェア

サッカーの基本プレーを徹底的に追求し、機能性を第一に考えた
サッカーシューズ“マークムシリーズ”

youngger®

MONTBLANC リアル・スポーツの追求
モンブラン株式会社